ずいそう

# 男純情と恋心

黒　田　信　夫

私は，北陸の地新潟に赴任して3回目の春を迎えようとしています。関東勤務が長かった私が思いおこす北陸の地は，冬が長く2階から出入りするほどの降雪があるとか，演歌『哀しみ本線日本海』に代表されるように暗いイメージを併せもっておりました。しかしそんな思いもいつしか吹き飛んでしまい，今では純朴でひたむきに生きる素晴らしい社外・社内の仲間に囲まれて，毎日を楽しく過ごさせていただいております。

新潟といえば何をおいても日本酒が美味しいことです。日本酒は冷酒・熱燗でいただくも良いが，のっぺ汁をつまみに人肌のぬる燗が私は好きです。そしてカウンター越しには，白いかっぽう着姿のおかみさん（新潟美人）がいればなおさら杯が進むというものです。

私は今，小料理店カウンター奥で一杯飲みながら，サラリーマン生活40年を振り返り，思い出をたどっております。新橋本社での入社式翌日から5時起床，12時就寝の生活が約1ヶ月続きました。安全靴の重さと終日立ちどおしの舗装現場の為，足が棒のようになった記憶があります。当時，休日は雨天日だけで，土・日曜日も出勤の毎日でした。はたしてこの職場に長く勤務できるかと不安な日々が続きました。しかし先輩・同僚たちの励ましに支えられながら何とか踏ん張ることができました。当時の経験で，どんな困難にでも耐えうる精神力・前向きに生きようとする気持ちが培われたのだと思います。

20代の頃は，旧建設省・県発注工事を担当しておりました。平坦性の目標数値を確保する為，合材運搬車の誘導からAFの合材撒きだし量・転圧ローラーのスピード等皆で意見を出し合ったものです。時には機械職員さんの宿舎で酒を飲みながらの指導（説教）は長時間続くこともありました。今にして思えば舗装技術のイ・ロ・ハを教えていただいたことに感謝の気持ちを忘れることができません。そして自分の担当現場は少しでもキレイに仕上げようとする，純粋で一途な男たちの気持ちがあったからと思います。それは技術屋として「現場に恋する気持ち」を持っていたからでしょう。

30代中頃からは出張所・営業所所長として御客様に接する機会が増えてまいりました。1つの案件を如何にして受注に結びつけるか，技術及びコストの提案に必死でした。又現場でクレームが発生すれば，御客様には大変申し訳ない気持ちで必死に謝罪と事後処理に対応したものです。人は誰でも失敗や間違いを起こすものです。そんな時こそ言い訳をせず真摯に対応することこそが，結果的には御客様からの信頼をいただけると確信しました。これも営業として仕事を大事にし，「御客に恋をする」純粋な気持ちがあったからだと思う。当時女を口説けないのは仕事もできないと先輩たちから教えられました。それは言葉でなく誠の気持ちでぶつかれということです。

男は誰でも小学生3～4年生になると初恋を体験していると思います。同級生の女の子であったり，年上の女先生であったり，少しずつ異性に興味を抱くようになります。成人してからの恋愛はリスクもあり，すべてが成就するとは限らないし，時には失恋という痛手を蒙ることもあります。しかし少年時代のような「恋心」はさわやかで良い。一方的な片思いでも恋心を抱く相手が存在するだけで，生きる勇気が湧いてくるのは私だけでしょうか。

「仕事は自分一人じゃできない」と話す上職者は随分といます。無論多くの社員や協力業者の協力無しで仕事を完成することはできないし，業務運営を完遂することはできない。若い時分，自分が誰よりも仕事をしているんだとの自負心に駆られたときもあり，本当に頭で身体で理解をしてくるのは40代後半であったと思います。最近は，先輩・同輩・後輩に支えられ前言の意味がしみじみと感じられる毎日です。

近年，私は9名のメンバーと顔を合わせることを楽しみにしています。昭和61年から平成にかけて発展途上の事務所で苦労を共にした仲間たちです。すべて社外メンバーですが，当時20歳であった若人もいまや45歳のオジサンになっております。昼ゴルフをし夜はカラオケ酒宴を年3回程度開催し，当時の苦労話談義に花を咲かせております。私にとって一番辛い時代を一緒に過ごし，いろいろな形で助けていただいたことに感謝をしております。

人は皆オギャーと生まれ，いつかは草花の下に埋もれる運命にあります。いつしか身体は朽ち果てても，気持ちだけは若さを保ちたいと思います。それには「仕事に恋をし」「異性に恋心を持つ」気持ちを黄泉の国へ行くまで持ち続けていければ本望です。

――くろだ　のぶお　日本道路㈱　執行役員北信越支店長――